

日記にみる大震災の風聞

大曲に住む田口松圃が、関東地方を襲った大震災を知ったのは、地震発生翌日の9月2日。

日記には、発生後の混乱や日が経つにつれて明らかになる被害状況、知人の安否を心配する大曲の人々の様子が記されている。



日記（大正12年9月2日）

大曲町長などを歴任した田口松圃の日記。震災翌日（2日）の秋田新聞の記事で東京の大地震を知り、その日の午後到大曲警察署で情報を収集した様子が見て取れる。

田口松圃家資料



庶務事務簿 永久

（大正12年）

関東大震災により大沢郷村へ帰還した人数・状況などの調査。大沢郷には7名（男5・女2）が帰郷したことがわかる。

大沢郷村役場文書



震災書類 渋谷書記扱

（大正12年）

関東大震災による角間川町の避難者等調査について書かれた公文書。

調査内容によると、早い者は9月5日には帰省しており、震災直後から10月末までに30名の角間川出身者等が避難してきていたことがわかる。そのうち数名は帰京せず、角間川での就職を希望している。

大曲市役所文書